

秀真が伝えた

真実の天皇

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市

平成十七年三月十五日

大太古の昔、今から約七百二十万年昔の事に、夏至の太陽丑寅の金神の金玉なる「丹」が、芒種のエネルギーに依って、宇宙産迂迦の障壁賀の中の天王平で育まれている生魂に、金玉の丹が結合して丹生丹生魂遺伝子が憑軀子されるのでありました。

そこで天上神靈津の天命に依り、人間の生命継承権が貸與され、人類の大祖人「初代」伊邪那岐尊・「初代」伊邪那身命として、生命界地球に天命が、既に用意された生命の免疫所「與謝津」天記津州なる神靈地。丹波国の貴天原真名井原の丹庭の地に、御降臨に成り賜い。天命にお従いに成られて、三十八名の御子を憑軀子育遊ばされたので御座いました。

そしてその内訳が、男子が十九名にて、女子が十九名でありましたので、十九組の女男を拵えに成り、長男長女の女男には、生命継承権憲邪の資格をお與えになり、大丹生すめらぎ天皇家を名乗る事をお許しに成られた

ので御座いました。

そして其の上で、後の十八組の女男には丹生家を名乗る事をお許しに成り、其の丹生家十八家は、「大丹生すめらぎ天皇を補佐し、奉り、天皇家に男子誕生なき時は、丹生家十八家の内より天皇を奉るべし」とお命じに成り、「生命継承権憲邪の直系の血脈系譜をして、万世一系の天皇を以つて人間の生命継承権を奉るべし。」と、お命じに成られたので御座居ました。

尚、「大丹生十八家を畿内に赴任させに成り、天皇家を補佐すると共に、吉野山の創根ヶ峯にお祀りされている植物・動物・人間の三大生命継承権憲邪の神靈憲力氣を、丹生家十八組が二十年毎の交替制を以つて、お祭り仕続けるべし。」とお命じになりました。

「この生命継承権憲邪「天皇」の詔を書留て、後世に伝え遺したの御靈魂がお伝え下さったので御座居ました。」

其の秀真伝を何故に徹底追放したか・・・

神倭伊波礼比古尊(神武天皇)は、時の大和政庁が生駒山の石切に、饒速日天皇の政庁を、一気に攻め落とさんと孔舎衛坂を進撃されたのですが果たせず撤退され、紀伊半島を廻り那智の渚の浜から上陸されて、熊野の「大斎原」伊邪那岐家世襲最期の伊邪那岐尊御夫妻と、ハヤスサノ才尊御夫妻と、アマテルカミ尊御夫妻の墓所を質に取り、生駒山の饒速日天皇に、「我が言う事に従わなければ、この墓どころとて暴いて仕舞う」と談判になれば、饒速日天皇は、天皇が戦争に撃つて出たのでは、最早、何方が勝つても天皇家では無く王家となり、人間人類の生命を司る生命継承権憲

邪じやでは無なくなつてしまい、【天照皇大御神】の大御意志「民草和氣の倫理みちにも背そむく事ことになり、朕ちんが皇位を引退して、無血を以つて政權讓渡国譲りをせいけんじょうとくにゆずして置けば、神倭伊波礼比古尊とて、天皇の立場が何であるかが解わかる日も来るでありましよう」と仰せになり国譲りを遊ばされたので御座居ました。然しかしながらその後の神武政權の仕した事は、

(一) 先すず一番最初に手掛けたのが、真実の生命継承権憲邪の書き綴つづつた秀ほ真書すまじよを徹底的に調べ出し、悉ことごとく追放したので御座いました。

(二) 其の上で、近畿地方畿内きないに赴任している天皇家の分家、丹生家十八家の人々に、「何時いつも時代の変わり目には、あなた方は冷飯ばかり食べさせられていますが、悪い事ばかり続く事はありません。必ず良い時がきますから、その時は一緒に立ち上がりましようね。」と、言葉巧たくみに近付いて、終に弘文天皇との皇位継承権の戦い「壬申の乱じんしんらん」に丹生家の人たちを立ち上げさせて、勝利した天武天皇で御座居ました。

(三) 然しながら自らが皇位を継承するや、手の平を返したように、丹生家にゅうけには冷たくなり、弾圧を加えてくる始末でありました。そこで、丹生家の人々村人たちは、天武天皇の事を二重人格者「両面宿名りょうめんすくな、両面宿名りょうめんすくな」と密かに呼び合つのでありました。現在も飛騨の丹生川村にあります千光寺には、円空上人が刻まれた「両面宿名」の像があり、一面は優しいお顔に彫られ、一面は恐ろしい怒おこつた相で遺いされています。

又、奈良県明日香村にあります橘寺たちばなにも両面石りょうめんせきがあり、時の権力政治には要注意を発信警告した物と想われます。

(四) そして順次事を運び、丹生家最大の活動の拠点であります吉野山の創根ヶ峯あおねがみねの解体のために、天武天皇が乗り出されたので御座いました。

今から約七百万年前の事に、人類の大祖人として、天上神靈津てんじょうしんれいかいの天命より、人間の生命継承権を貸與たいよされて、この生命界地球に、既に天命が用意された、生命の免疫所「與謝津よさか」天記津州なる、丹波国の真名

井原の丹庭に御降臨遊ばされた、人間人類の大祖人「初代」伊邪那岐尊
御自らが、吉野山の創根ヶ峯の山頂に、植物・動物・人間三位一体の生命
継承権憲邪（佛教では弥勒菩薩）の神霊真力氣を、三津の岩石を並べ以って
その祭りをされたので御座居ます。天武天皇は吉野山にお入りに成り、
その時の創根ヶ峯の祭主「役小角」を呼び出され、「我が日本国の初めの
地は、筑紫国の日向の高千穂の峰であると言つのに、この吉野山の創
根ヶ峯の山頂に、何やら得体の知れぬ神祀りを仕手いると聞くが、即刻取
り払い、山下に降ろすべし」とお命じになれば、役小角さまは冷静に「天
皇の御詞なれど、私達丹生家の者共は、人間の生命継承権憲邪「初代」
すめらぎ天皇の命によって、先祖累代お祭りし続けてきた者にて、「初代
の憲邪」大丹生すめらぎ天皇の御詞がなければ、祀りを止める事は出来
ません」とお答えに成れば、直ちに役小角を逮捕して、伊豆の大島に流罪

にされたので御座いました。天武天皇は役小角をこのようにして追放し
て置いてから、創根ヶ峯の三津の神霊石を山下に降ろしてもお氣に召さ
ず、更に下に降ろさせになり、現在の吉野水分の神に変えてお許しに成
られたのですが、三津の神霊石を祀る事は許されませんでした。

(五)このようにして吉野山のお祀りを破壊しておいて、今度は北伊勢国の大
安町石樽に在りました、大和民族の三八子「大丹生すめらぎ天皇家」を
徹底的に攻撃されたので御座居ました。

大丹生家丹生家の人々は、大丹生すめらぎ天皇を逃す為に、人垣・人盾
を造り、やっとの事で生命継承権憲邪すめらぎ天皇をお逃しする事が出
来たのでありました。今も北勢町員弁には、其の戦いの時に人垣・人盾に
なつて戦死した人々を葬った麻績塚が二つ遺されています。

このようにして大丹生すめらぎ天皇を追放して置いて、畿内に赴任して

いた丹生家を、みな差別の部落にしてしまい、続いて大八州日本列島に在りました、孫たちの丹生家を総て差別の村にしてしまい、二度と頭を上げる事が出来ないように、三津の掟を定めたのでありました。一津には、差別の者には土地を所有する事を禁ず。二津には、部落民は他の者との結婚を禁ず。

三津には、商いをする事を禁ず。

この三津の禁止令によつて、大丹生家丹生家の人々は二度と頭を上げる事が出来ず、千数百年を差別の部落民として、黙殺される事となつて仕舞つたのであります。

此処に日本列島大和国を征伐東征した神倭伊波礼昆古尊を初代天皇とする。神まで武器に変えてしまふ神武権力政治が、立ち上げられて仕舞つたのであります。

(六)更に権力政治を進める為に、大和民族として最後の砦の役をなしていた尾張族「天照派」の至宝「民草和氣の剣」を取り上げるのに、「返せといつても、返せなからうから、盗ませて取り上げるまでの事」と、尾張族を無視した事が、神霊を無視したと同じ事に成り、大和民族の神霊靈魂まで盗ませ、神までも己の権力を武器に変えようとした事が許されず、終に、神霊津の総要の神「天照皇大御神」の激震に触れ、天罰が下された天武天皇は、脳を患いになり、氣狂い・氣違となられ、御自らも其の事にお氣付きに成られたので御座居ました。「今、朕が此の儘死んだのは神佛にお詫びが出来ず、誰か朕に代わつて神佛にお詫びをして呉れぬか。」と請願になり、「もしも、此の儘死んでも、お詫びが適わぬ内は、殯宮から出してくれるな。」と御遺言になり、御崩御あそばされたので御座居ました。

「歴代の天皇の中で殯宮に、一番永くお見えに成られたのが天武天皇で

ありました。」と初代伊邪那身命が仰せになられました。

ここで知瑠置かねばならぬのが、何故に神霊が天武天皇が氣狂い・氣違にしてまでも、生命を葬られたかの御神意を、より正しく、より深く理解しなければ、私たちも許されないので。

「神霊が天武天皇を並みの病気で命を召されたのでは、記紀の始末が来ず、遺されたのでは生命継承権憲邪の血統血筋に始まった、大丹生すめらぎ天皇家に執つても、人間の尊厳が保てなく成り、災いばかりの権力国家権力世界が台頭して、退廃して逝くばかりであります。」と仰せに成られたので御座居ました。

そこで神意は氣違が編纂した記紀なれば、天武天皇と共に記紀も葬る事が出来る筈であります。」と仰せに成り、人類の未来を予見しながら後の世を、見守られるのであります。

本来ならば、此処で生命継承権憲邪を「祖」とする、大丹生すめらぎ天皇家は途絶えて、大和国を征伐東征した神倭伊波礼昆古尊を初代とする、神武王家が成立した筈なのに、引き続き、初代天皇を名乗って仕舞ったのであります。

それには其れなりの理由があったからの事でありました。その理由は次期持統天皇の神佛へのお詫びの入れ方にあつたのです。

(七) それはアマテルカミ尊が御造営に成られた伊勢神宮が、約六百六十年

ものながきに渡り放置されていたものを、見事に再建遊ばされると共に、

吉野山で丹生家十八家が二十年毎の交替制を以つて、お祀りして来た創根ヶ峯の制度を、伊勢神宮に取り入れに成り、二十年毎の式年遷宮の制度にされ賜い、次期天皇から大和臣族の至宝靈魂であります民草和氣の剣を天皇継承の剣とされた事によって、生命継承権が貸與された天皇家が、存続する事が出来たのであります。

然しながら権力は権力政治しか出来ず、佛教を隠れ蓑にして逃れた丹

生家の人々が力合わせをして、徐々に立ち上がって来るので御座居ました。中でも四国の弘法大師「空海」は、大和の国の三八子より、多くの人々の犠牲によって、四国に逃れられた「大丹生すめらぎ天皇家」をお守りするが為に、四国全土を一巡する事が出来る修験の霊場を開設されて、陰ながら密かに正統天皇をお守りされたので御座居ました。

三重県名賀郡阿保丹生家より、擁立された村上天皇は、「天皇を名乗る事の出来るのは、生命継承権を貸與された、人類の大祖人「初代」伊邪那岐尊の三十八名の御子直系の、血脈系譜の子孫でなくては成れないのです。」と仰せに成られたので御座居ます。

その子孫の事を南朝天皇と申し上げて来たので御座居ます。そして、大和の国を征伐東征した権力者の象徴天皇の事を、北朝天皇とお呼びして来たのであります。

此処で深く知り置かねばならぬのが、花山天皇の事で御座居ます。

吉野山の創根ヶ峯の神祀りの追放以来、成りを潜めていた、丹生家の人々が力を付けて来た時期に、丹生家の拠点であります畿内に、過去・現在・未来に番外を合わせ三十八箇所に、生命遺伝子を姿形に現した、観音菩薩をお祀りする霊場を御造営に成られた花山天皇の大御意志を理解して置かなければ成らぬのではないのでしょうか・・・？

この観音信仰祭りがされた事に依ってか、天照派も神武派も双方共に自重志合ってか、何事も無く時を経て行くのですが、他を支配服従させんとする権力は静まらず、後醍醐天皇の御代に皇位を巡る継承権争いが始まって行くのですが、只、権力の象徴天皇にせんとする権力者は、正統天皇が何であるかはどうでもよく、力攻めを以って終に吉野山を封殺して、力と力の対決「戦国時代」に突入して行くのであります。

そして、徳川時代となり、約三百年もの平和が続いたのでしたが、時の生命継承権憲邪の資格の持ち主「孝明天皇」を生かして置いたのでは、自

我の権力欲を果たす事は出来ぬと知る権力者は、終に孝明天皇を暗殺してしまつたのでありました。

これ程までに権力欲に飢えた権力者を、アメリカ・イギリスの武器の自由商人フリーメーカーソンが見逃す筈はありませんでした。

日清・日露の戦争を皮切りに、武器の自由商人の代理戦争をして行くばかりでありました。

それに負けずに国民も、古事記日本書紀にくるまれていて、「長い物には巻かれ、太い物には飲まれよ。」の諺ことわざに従い、靈魂を無くした国民も、「勝つた、勝つた。」と朝あさ治・大正・昭和とフリーメーカーソンの言いなりに、戦争に明け暮れた其の果てが、日本列島全土を焼き尽くされた其の上で、始めの国の宿命に依つて、世界で始めての原子爆弾投下の憂き目に合う事と言ふ始末で御座居ました。

然しなれど、権力欲に溺れおぼ、日ノ本の国を不幸のどん底に引き入れた権力者たちは、詫び入る意志は微塵みじんも無く、戦争を止めんとはせず、本土決戦「一億総玉碎」を唱えるばかりで、悲しい限りで御座居ました。

その刻、生命継承権憲邪せいめいけいしゅうけんけんじやに立ち返られた昭和天皇が、「初代」の憲邪さまのお導きの基に、昭和二十年八月十五日の事に、停戦の詔勅を発せられ、日本の国をお救いに成られたので御座居ました。

そして、次に来る始めの国の宿命、核戦争の戦場となる宿命を避けるには、戦争放棄するしか無く、日本国憲法の第一条に、生命継承権憲邪すらぎ天皇を、憲法第九条には戦争放棄の条文をお定めになられたので御座居ました。

然しながら、又しても権力欲に固辞こじする権力者たちが、生命継承権を貸與されて見える「すめらぎ天皇」を無視して、憲法第九条を改悪させんとするは、今上天皇を暗殺すると同じ事である。」と仰せで御座います。

大和民族の故郷「民草和氣の宿り地」愛知県名古屋市緑区大高町日上山に、全世界の戦争殉難者「靖国の御靈魂」をお迎えして、お祀りする「世界平和神宮院」を造営なし、竝宮として、「昭和神宮」を今上陛下いまのちかの命に変えてでも建設なし、一大世界平和環境観光産業を起こし、世界の恒久平和に貢献する国となるが良いでありますよ。